

ワイズの発展を願ひ

ワイズへのご恩返しを考える



私が次期理事の職にあった2015-2016年度 私は如何にして西日本区を発展させるか？

色々と思い巡らしていました。そんな中 Yとワイズの大御所2名から天の声がありました。

1つ目のYは元YMCA 同盟総主事の山田公平さんから、ワイズとYMCAが共にWIN WINの関係になるような成功事例を作って、日本からアジア、世界に拡げて行きたいとの事で早速協議の末、「ワイズ・YMCA パートナーシップ検討委員会」を組織化して現在も活動を継続して頂いており、成果もそれなりに上がっていると思われま

す。2つ目は、元日本区理事の森田恵三ワイズから、メンバーは年々減少しているし高齢化が進んでいる。「これでいいのかワイズメン！ほっとけない！」と言われ話し合った結果、ワイズの特徴でもあるが弊害とも考えられる、理事・事業主任が1年任期制で事業の継続がなされていないからではないか？では、キリのいい国際ワイズ創立100周年 西日本区25周年に当たる2022年に向かつての6年間で立て直す事を考えよう、との熱い思いが一致して私の理事期第1回役員会にて理事の諮問機関としての「ワイズ将来構想特別委員会」設置を上程し、可決して頂きました。

その後は、森田ワイズに委員長になって頂き委員として岩本・大野次期理事をスタートにして現在に至っております。

発足から現在までの詳しい活動は「新生ワイズ起こしニュース」第1号から第4号（西日本区HPにも記載有り）に譲るとして、何と言ってもこの特別委員会がワイズ起こしの起爆剤になる訳ではありません。基本は各部でありクラブです。

その為に各部に「ワイズ起こしの実働チーム」を作って頂くようお願いしております。その各部にできた実働チームと私たち区の特別委員会がタッグを組み、各部・

ワイズ将来構想検討委員会

副委員長 岩本 悟（熊本にし）

各クラブの活性化に向けて活動を続けて行きたいと強く念じております。

ワイズの使命は、ワイズ活動によってメンバー1人ひとりがリーダーシップを開発・助長し、よりよき社会を構築するために尽力する事です。その為には数の力は偉大です。是非 皆様のご理解とご協力を切にお願いいたします。

最後に、ご恩返しについて書かせて下さい。

理事はじめ区役員や部役員・クラブ会長経験者をお願いしたいのは、「自分が役員として神輿の上に乗る指揮を執れたのも、その神輿を担ってくれた人がいるからこそ出来た訳です」。その担いでくれた人に対してのご恩返しの義務と責任がある事を忘れてはなりません。このご恩返しの実践こそが後継者育成にもつながって参ります。

私が理事に就任する際の理事方針でも述べましたが、今の自分があるのも、先輩ワイズメンはじめ多くのワイズの仲間にて育てて頂いたお陰です。また、長男をワイズに引き込んだのも、同じくワイズ仲間にて育てて頂いたからです。お陰様でそれなりに成長しているように思います（親バカですが）

さあー 全員で「ワイズ起こし運動」を熱気をもって、本気で展開して参りましょう！

西日本区ビジョン

《誇りと情熱をもって社会に

貢献する前向きで逞しいワイズ》

【改革の基本計画】

1. 部・クラブのビジョン・目標・実行計画
2. 組織風土の改革案
3. 質量相俟った会員増強を推進
4. 広報・情報発信機能の強化
5. YMCAとの協働関係の改善
6. 地域奉仕のあり方の改善

◎上記実現のため各部実行チームと特別委員会との協働により推進

## 【特別寄稿】 ワイズ と YMCA の パートナーシップ

元YMCA主事として、リエゾンとして

山田 公平 (宇都宮クラブ)



YMCA が、地域での役割を果たすには、様々な困難や課題を持つ人々の声を聴き、何が求められているかをよく考え、新しいプログラムを生み出すことが大切である。

ワイズには、多職種での経験や人とのつながりを求め、資金的な応援者を紹介してもらうことなど期待できる。

YMCA の主事は、頭の中の 90% は YMCA の経営固めが役割であると見ている。したがって、残る 10% の時間とエネルギーを地域の行事、国際活動、特別講演会を企画することなどに充てていくような働きを期待したい。

これまでもそういった行事には、ワイズの応援をお願いしてきた。まさにこの 10% の仕事は、地域住民にとって何かユニークな味を持つ団体として YMCA が映ることになる。この働き、イメージを支え、新たなブランドを生み出すために地域にあるワイズの持つ力に頼ることができるかが問われている。地域のニーズに応えるためには、多くのボランティアを巻き込むことが必要。そんな中でワイズメンの経験とつながりに期待していきたい。

新型コロナウイルスによってワイズも YMCA もその活動の多くがストップしてしまい、これからもいつまで続くか分からない状態にある。

しかし、このコロナ禍によって新しい地域の課題が現れてきた。その中にこれからの YMCA とワイズの新しい役割やパートナーシップの在り方が示されているのではないかと。今こそ、各地で、YMCA とワイズが共に話し合い、地域の中での課題にどう取り組むかを考え、地域の人々にとって有益な働きをするチャンスが与えられていると考えたい。

まず、話し合いましょう。そして共に地域の課題について、当事者側の理解を深めるための勉強会をしていきましょう。それが、今年度の仕事。来年度には何か協働して行う仕事をスタートさせてもらいたい。小さいこと

でも地域の人々に意味ある活動を。

そこにワイズが広がっていく鍵があるように思う。

一註ーリエゾンとは、YMCA とワイズの橋渡しの役割・機能をいい、区には「ワイズ・YMCA パートナーシップ委員会」があり、山田さんも委員の一人です。この原稿は東日本区 横浜とつかクラブの 11 月号ブリテンに掲載されたものを、山田公平様並びに横浜とつかクラブのご了解を得て転載いたしました。

入会おめでとうございます！

(今回の入会者：11月19日時点)

### ★ 10 月 (10月：6名)

山口 光一(芦屋)  
三宅 周平(京都)  
亀山 兼四郎(近江八幡)  
山本 大貴(京都グローバル)  
玉置 達也(京都ウエスト)  
野口 治之(京都めいぶる)

### ★ 11 月 (11月：3名)

湯沢 隆(北京都フロンティア)  
立山 英典(大阪サウス)  
知念 章雄(和歌山)

**短 信** 宇宙船「レジリエンス号」 11月16日に NASA ケネディ宇宙センターから、打ち上げられた「レジリエンス号」。この「レジリエンス=回復力」は世界中の YMCA が「レジリエント YMCA の活動」として今年の春の段階から使用しています。報道では 4 人の宇宙飛行士たちは、話し合い、宇宙船の名前を名付けたそうですが、ひょっとしてそのことを知っていてつけたのかも？

日本 YMCA 同盟担当主事の光永尚生様が 11 月 17 日ワイズドットコムに投稿されたものを一部略して掲載しました。詳しくは後日、理事通信に記載される予定です。

## ワイズの将来は、今つくられる！

### 今、すべての活動を2022に向けて

財政監事 大野 勉 (熊本にし)



私は、「明日のリーダーは今日つくられる」という言葉が好きだ。

YMCA の目標の一つである青少年育成について、リーダーの必要性、そしてそのリーダーは、育成されてこそ存在するのだということを示している。

私が若かったころ、立派なリーダーが多くいた。あの人も、この人も、ワイズの活動の中で、私たちに指針を示し、模範となって行動してくれた。その人たちの若い頃の姿を想像しながら、自分のあるべき姿を考えていた。

「ワイズは人を育てる所、そしてワイズの宝は人である。」を教えてください。

今、このリーダーという言葉、ワイズに置き換えてみたい。「明日のワイズは今日つくられる」となる。つまり、ワイズの将来は、今の活動の中から生まれてくるということだ。

ワイズ将来構想というのは、将来を夢描くだけでなく、今、目の前の活動を地道に、求めに応じて、心を込めて行うことから見えてくる。一人ひとりが、各クラブが、ワイズとしての活動を、ワイズに誇りを持って、ワイズの力を信じて行うことで、将来がつくられる。

今ある活動を継続していくことは大切だが、それに加えて、新しいニーズに応えたり、新しい課題に立ち向かったり、チャレンジすることが必要になってくる。チャレンジを忘れたら、ワイズは廃れてくる。常に若々しい感性を持ち、世の中にアンテナをはり、より良い人間関係を求めて新しいものを生み出していくワイズ活動でありたい。

2016-17 年度に誕生したワイズ将来構想委員会によって、2022 年のワイズ創設 100 周年、西日本区創設 25 年に向けて、大きな意義ある指針が示された。さらに、新生ワイズ起し運動として、各部において実働委員会が立ち上げられ、実情に応じた行動目標を見出し、活動が活発化してきている。

そして、2022 年はもうすぐそこまで来ている。お尻に火がついたといえる。もう待たない！

これからは、すべてのワイズ活動を 2022 に向けていきたい。

向けて欲しい。

向けて行こう！

ワイズの将来は、今の私たちの活動にかかっているのだから。

2022 年になって、「もっとこうしておけばよかった」という

後悔は絶対にしたくない。悔いの残らないように活動していく。そのような姿を若い人たちに見せたい。そうしてこそ、「明日のリーダーが育つ」と信じている。

現在のリーダー(理事を中心とした役員の皆様)を中心に、結束しよう！ワイズメン！

## 「ワイズ活動をもっと

## 実りあるものにしてゆく為に」

直前理事 戸所 岩雄 (彦根シャト)

「将来構想特別委員会＝ワイズ起し運動」から発信されるメッセージが会員の増強であるとの一面がクローズアップされ「ワイズ運動の本質を損なう恐れがある」と考えるワイズメンの方々にとって



は、異質・異形の運動に見えるという側面を持っています。

将来構想特別委員会が目的とするより良きワイズ運動を持続的に構築しそのプロセスも含め結果として「運動の拡大＝会員の増加」に繋がるという構図が誤って認識され少し齟齬が生じているのかも知れません。

委員会の主旨を誤解の無い様に、委員会内部での議論を方法論・技術論だけに留まらずに意義目的をより鮮明に表現できるメッセージとして打ち出すべきと思います。コロナ禍は我々に大きな試練を与えていますが、停滞しているワイズの運動を立ち止まり再考させてくれる好機と考え新たな歩みを始めることが大切だと思います。

また、この機に西日本区が体質的に持つ、古い制度に固執するという負の遺産を 払拭し、よりアグレッシブな運動体へと変革することも必要です。

その為にはワイズ活動が抱える多様な問題を議論し、全てのメンバー・クラブにその内容を開示し還元していくことこそがこの委員会に課せられた役割だと思います。ワイズ活動をもっともっと楽しいものにしてゆく為に。

## 編集後記

「新生ワイズ起しニュース」第 4 号で皆様から原稿をお寄せいただきたいとお願いしたところ、姫路グローバルクラブから嬉しいニュースが届けられました。23 日の祝日に開催されるキャンプの様も楽しみです。

また、元日本YMCA同盟総主事の山田公平様が横浜とつかクラブのブリテンに特別寄稿された一文を、ご無理を言って転載させていただきました。

YMCAとワイズの関係について大変役に立つお話だと思います。ぜひお読み頂ければ幸いです。EM

# ワイズメンズクラブの活動が紹介されました

## 姫路グローバルクラブがひとり親家庭の子を応援

### 「楽しさいっぱいデイキャンプ」を開催

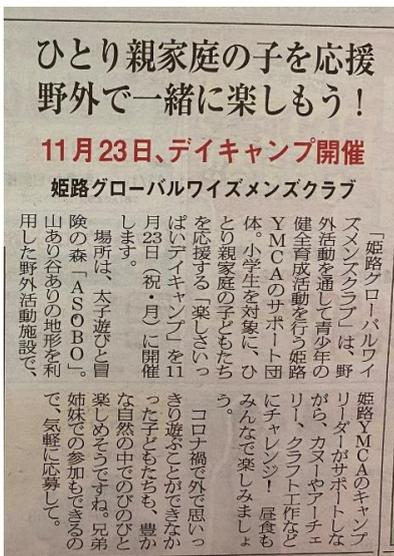
姫路グローバルクラブ(橋崎恵子会長)が、ひとり親家庭の小学生を対象に、「楽しさいっぱいデイキャンプ」を11月23日(勤労感謝の日)の午前10時から、太子町原白毛山の姫路YMCA「太子遊びと冒険の森[ASOBO]太子キャンプ場」で開催します。

新型コロナウイルスの影響による自粛生活や夏休みの短縮などにより、子どもたちにストレスが溜まっているのではないかとこの思いから、広々としたキャンプ場でのびのびと楽しいひと時を過ごしてもらおうと企画されたものです。

この日はひとり親家庭の小学生30名を招き、カヌー、アーチェリー、クラフト、森遊びなどで楽しい一日を過ごしてもらおうとしています。

この企画を姫路市役所の記者クラブで発表し、朝日新聞、神戸新聞、姫路全戸に配布されるリビング姫路(155,300部)にそれぞれ掲載されたと知らせていただきました。

皆様のクラブでも事業を開催される際はプレスリリースしてワイズメンズクラブをアピールしてください。



リビング姫路に掲載された紙面



朝日新聞に掲載の紙面



## ★大阪高槻クラブ

「ジャガイモ」寄贈が高槻市のホームページと

J:COMの地元ニュースで放送されました

大阪高槻クラブ(西野陽一会長)は創立(昭和57年)以来、地域での社会奉仕活動を行っています。今年も活動の一環として昭和61年から34年間続けてきた、北海道十勝のジャガイモ300キログラムを高槻市社会福祉協議会へ寄贈しました。

このニュースが10月5日、高槻市のホームページ「街フォト」(右写真)およびJ:COMの地元ニュースの時間で放送されました。

